

2014 花園大学 先生のおすすめ図書

v.1.1

花園大学の先生が選んだ、皆さんにぜひ読んで欲しい本のリストです。先生のコメントが付いています。図書館1階の「おすすめ図書コーナ」に配置してあります。貸出することもできます。

花園大学情報センター(図書館)



生き方：人間として一番大切なこと

稻盛和夫著

サンマーク出版 2004

学長

細川景一

〈請求記号〉
159/1 53

稻盛氏は、元妙心寺派管長西片老師に師事し、禅を学び「京セラ」「KDDI」を創業し、世界的企業に育て上げた人です。本書において氏は、これまでの価値観が崩壊し、人々が確信を喪失して閉塞感と不安にさいなまれる混迷の時代に、改めて「如何に生くべきか」を問っています。禅への関心が高まっている昨今、氏の人生哲学を学ぶことは、これから的人生に大きな力になると信じます。



善の研究 改版.

西田幾多郎著

岩波書店 2012

文学部

仏教学科

清水大介

近代日本の哲学者、西田幾多郎の若い頃の傑作です。禅修行の体験が基礎になっています。主題は「純粹経験」ということですが、これは、断崖を攀じ上るとか、音楽家が名演奏を行うとかの三昧境の経験が、すべての人間の経験や思想の基礎になっていることをいっています。また私たちが花や光を見た瞬間は、私たちは花や光と一緒にになっていますが、それも純粹経験です。花園大で本書を課外授業で講読して三年になりました。ゆっくりと読み進みませんと、なかなか理解できません。哲学書とはそういうものです。今年は四年目に挑戦です。注釈書としては、小坂国継の『善の研究』(講談社学術文庫)が最適です。



「世界史」の哲学 東洋篇

大澤真幸著；古代篇

講談社 2011

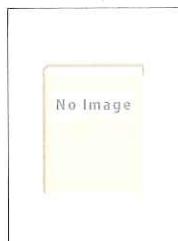
文学部

仏教学科

中島志郎

〈請求記号〉
209/O 74

数年前、柄谷行人『世界史の構造』(2010)も大きな話題になったが、いま大澤真幸『世界史の哲学 東洋篇』(2014)も、人類の精神史という大きな構想を持っている。両著が見通しているのは、数百年単位で変貌してゆく人間精神の物語である。しかも仏教に言及し、仏教に重要な意義を見ている点でも共通の問題意識がある。読書案内というには初心者には難解にすぎる書物だが、「超」難解な書物に悶々とした時を過ごし、己の無知に思いを致すのも若者の特権である。仏教とは何であったか、そしてどうあらねばならないか、仏教を人類の精神史の上で、いわば外から眺める視点を提供してくれる本書にあらたな発想の可能性を見出すことができるだろう。



臨済録

臨済[著]；[慧然編]；入矢義高訳

岩波書店 1989

文学部

仏教学科

安永祖堂

禅を建学の精神とする本学に学ぶ学生ならば一度は手にとっていただきたい一冊。唐代といふ激動の時代の中国を生き抜いた禅僧の言行録です。しかし、一人の人間が本当の自由を求めて悩み、かつ生き抜いた記録として読んでも興味深い一冊でしょう。



伝説の算数教科書「緑表紙」: 塩野直道の考えたこと

松宮哲夫著

岩波書店 2007

文学部 日本史学科 菅修一

〈請求記号〉
408/I 95/135

皆さんが小学校1年生になったとき使用した算数の教科書は、文字があまり書かれていくなくて絵が描かれたものだったと思う。本書は、絵ばかりで描かれた算数教科書を最初に考えた人に焦点をあて、算数教科書の歴史を描く。私は教科書史について学んでいる。その師の著作である本書を皆さんにぜひ紹介したい。



若い人に語る奈良時代の歴史

寺崎保広著

吉川弘文館 2013

文学部 日本史学科 中野渡俊治

律令制が整備された奈良時代は、日本の古代史を学ぶうえで基本となる時代です。飛鳥時代や平安時代に关心があつても、奈良時代の制度を押さえておけば、より理解が深まります。この本は、奈良時代の制度や史料の読み方などを、大きく九章(九講)に分けて解説しています。どれも具体例を挙げて解説をしているので、わかりやすいと思います。1ページ目から読まなくとも、目次を見て興味がある所から読み始めてみるのもよいでしょう。



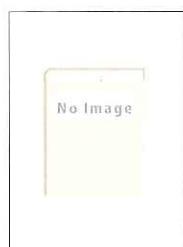
日本近代史を学ぶための文語文入門: 漢文訓読体の地平

古田島洋介著

吉川弘文館 2013

文学部 日本史学科 松田敬之

日本近代史を学ぶ学生諸君も漢文の知識は必要です。資料・史料を読み解いていく上でも様々な文字や語彙、訓読表現を知っておかなければなりません。そのような力を身に付ける上でこの図書は是非読んでもらいたいと思います。



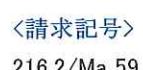
みやこの近代

丸山宏 [ほか] 編

思文閣出版 2008

文学部 文化遺産学科 後藤真

京都の文化財がどのように扱われ、現在に至っているかの概要を知ることができます。京都の文化財は「古都」といわれ昔からずっとそのままのようですが、実態はそうではなく、明治時代に多くの人々の苦労の中で変化し、守られてきたものです。祇園祭などにはじまり、建築・京都の都市計画に至るまで、京都の文化財を今までのイメージとは異なる形で見ることのできる基本書です



日本経済図説

宮崎勇 本庄真

岩波書店 2013

文学部 日本史学科 山中高光

〈請求記号〉
岩波新書/1447

将来経済社会へ巣立つ学生として我々の経済社会への理解は不可欠である。グローバル化が一層進んでいるが、我々は日本経済を基盤としているから、まずは、日本経済を理解したいものである。日本経済を扱った本はまさに山ほどあるが、本書を推薦する。本書はコンパクトな新書であるが、データが掲げられながら、近現代経済史、基本的国勢、生活・産業など主要な経済事項の現状と課題、将来の展望などが取り上げられ、日本経済の要所を把握させてくれる。本書は経済問題をより深く考える入り口となる。



〈請求記号〉
366/A 62

コンピュータが仕事を奪う = How computers can take our jobs

新井紀子著
日本経済新聞出版 2010
文学部 文化遺産学科 佐藤円

この本は、人間の知的活動のうち、どの部分がコンピュータに取って代わられているのか、コンピュータは何ができるのかについて書かれたものです。コンピュータが人間の知的活動のある部分を凌駕したために、この十数年で、人間の働き方は大きく変わっています。人間の働き方のいいたい何が変わったのか、これから職業に就くためにはどのような能力を育てておくべきなのかを考えさせてくれる本です。



〈請求記号〉
岩波新書/1256

木簡から古代がみえる

木簡学会編
岩波書店 2010
文学部 文化遺産学科 高橋克壽

木簡とは文字情報が記された木の札や木材、あるいはその削りくずを指し、多くが発掘調査によって地下から出土します。そこに記入されている内容には、各時代の生の歴史、たとえば、それを括りつけた物品が税としてどこから納められたのかや、それをもつ人物がどこからどこへ行くことを許可されたのかといった、文書記録に残されない人々の生きざまや政治の具体的なしきみを読み取ることができます。本書は、紙とともに伝達機能を果たした木簡の重要性とおもしろさを知り、新しい歴史像に期待を膨らませる入門書です。

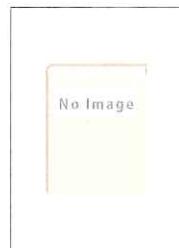


〈請求記号〉
141.2/Ko 76

意識は実在しない：心・知覚・自由

河野哲也著
講談社 2011
文学部 文化遺産学科 師茂樹

あなたの心はどこにあるだろうか。脳の中？ドキドキしたり苦しくなったりする胸？それとももっと別のどこか？本書は、心が身体の中だけでなく、むしろ私たちをとりまく環境のなかにあると主張する。なかなか噛みこたえがある本だが、知的な興奮はまちがいない。心の哲学から自閉症スペクトラムまで話題も広く、文学部・社会福祉学部両方の学生さんにおすすめしたい。



〈請求記号〉
920.8/Sh 69/58
~59

蒙求 上・下

〔後晋〕李澣原著
明治書院 1973
文学部 日本文学科 曽根誠一

平安時代の男性貴族の幼学書（入門書）の一冊で、「勧学院（藤原氏の教育機関）の雀は蒙求をさえずる」とも言われた基礎教養の書。唱歌「蛍の光」の「蛍の光窓の雪、書読む月日重ねつつ」は、この本の「193孫康映雪」「194車胤聚蛍」（油が買えず、雪明かりや集めた蛍の光で勉強した）という、苦労して勉学に励んだ話に基づいている。二話一組になっているので、一日一組ずつ、楽しみながら読むことが、読み上げるコツです

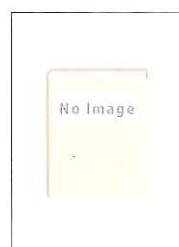


〈請求記号〉
377.9/Ma 59

キャンパスライフ：入学から卒業へ

丸山顯徳編著
嵯峨野書院 2013
文学部 日本文学科 丸山顯徳

本書は、読者の皆様の学生生活を実りあるものにするために制作したもので、大学時代に何を習得するかは、みなさん自身が決定することですが、そのヒントを提供するものです。本書は、15課からなり、学生生活全般について、分かりやすく解説されています。「大学生活入門、コミュニケーション、情報収集と利用、課外活動、就職の心構え、メンタルヘルス、リスクマネージメント、生活とお金」他。有意義なコラム、簡単な設問など。



〈請求記号〉
311.3/A 46

想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行 増補

ベネディクト・アンダーソン著
NTT出版 1997
文学部 創造表現学科 浅子逸男

これを読むと、国家というものの成り立ちがわかるし、そこには共通言語が働いているといふことも明らかになります。では共通言語とは何なのか。それはいかにして可能だったのか。それがわかると民族というものがいかに創りだされてきたかも理解できます。



偽善のすすめ：10代からの倫理学講座

パオロ・マツツアリーノ著

河出書房新社 2014

文学部 創造表現学科 秦美香子

〈請求記号〉

150/Ma 99

「偽善」に良いイメージを持っている人は、そんなに多くないでしょう。しかしこの本は、深く考える前に「偽善はよくない」と断罪してしまう「常識」にとらわれず、言説(これまで書かれた本や、新聞記事など)の分析をとおして「偽善」を考察していきます。あたりまえすぎて見過ごされがちなものの注目し、それがほんとうに「あたりまえ」のことなのか検証していくこの本の方法は、みなさんの研究や制作にきっとヒントを与えてくれるはず。



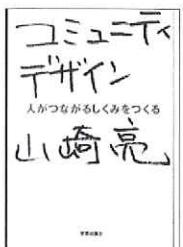
竹下佳江短所を武器とせよ：世界最小最強セッター

吉井妙子著

新潮社 2011

文学部 創造表現学科 山本清文

バレーボール選手としてはあまりに小さい。それゆえ「彼女は通用しない」と言われ続けた。しかし、ロンドンオリンピックでは、指を骨折しながらも、司令塔として銅メダルに導いた。シドニー・北京五輪では、メダルが取れず周りからの風当たりが強く人間不信になったりもしたが、不屈の闘志で3度の五輪を牽引して来た。単にメダルを獲得するだけではなく、短所を長所に変える彼女の考え方、突破力、チーム作り、監督との信頼関係など参考になると共に、勇気をもらえる一冊。



コミュニティデザイン：人がつながるしくみをつくる

山崎亮著

学芸出版社 2011

社会福祉学部社会福祉学科 川島ゆり子

〈請求記号〉

361.98/Y 48

地域を支援するとはどういうことなのかというなどを、筆者である山崎亮氏の実践事例を通して考えることができる1冊です。地域に住む人の暮らしをより良いものとする(ウェルビーング)ことをを目指すためには、単にサービスを提供する、あるいは施設を建てるということだけでは十分ではありません。住民自身が自分たちのまちについて考え方を見出し合い行動を起こすプロセスに丁寧に寄り添い、地域づくりを進める筆者の実践の醍醐味を感じてもらえばと思います。



車イスから見た街

村田稔著

岩波書店 1994

社会福祉学部社会福祉学科 春名苗

幼いころから障害を持ち、車イスでの移動を余儀なくされた弁護士である著者が、障害をもつ人にとって、街は、社会はどうあればいいのか、街を車イスで歩こうすると、どんな困難があるのか、電車やタクシー、トイレ、投票所はどうか、など様々な問題に対して自らの体験をとおして語りかけており、わかりやすい本であるため推薦する。



驚きの介護民俗学

六車由実著

医学書院 2012

社会福祉学部社会福祉学科 吉藤郁

〈請求記号〉

369.26/Mu 19

学生時代、地域で生活する独り暮らしの高齢者の生活実態調査を行いました。自分たちで調査項目を作り、地域に出かけていって聞き取り調査を行う中で「お年寄りの話を聞くのはなんと楽しいことなんだろう」と思っていました。ひとそれぞれ、その人の「物語」があり、それは驚きの連続。その思いがその後の私自身を導き、今に繋がっています。この本の冒頭に「それぞれがさまざまな人生を生きてきているすべての読者に、老人ホームの利用者たちの語る世界の豊かさを感じただけたら幸いである」と記されています。難しく考えずに、まずは手にとって読んでみて下さい。

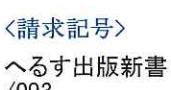


かかわりの途上で

相川章子, 田村綾子, 廣江仁著

へるす出版事業部 2009

社会福祉学部社会福祉学科 渡辺恵司



3人のPSW(精神保健福祉士)が日々の活動の中で経験した、こころの病を抱えた人に寄り添う「かかわり」の実際を書き記した19本のショートストーリー。ひとつひとつのエピソードに登場する人たちからそれぞれ影響を受け、成長していく3人のPSWがその時に何を想い、どんな信念からどうしたかったのか…素直に読み取れることができる内容となっています。あまり世の中には知られていないPSWの仕事の実際を知ることができる一冊！精神保健福祉士を目指されている学生にはお勧めします。



方法としての面接：臨床家のために 新訂。

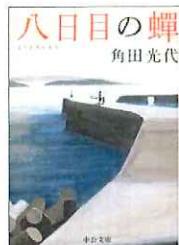
土居健郎著

医学書院 1992

社会福祉学部臨床心理学科 荒木ひさ子

〈請求記号〉
146.3/D 83

本書は『甘え』理論で有名な、土居健郎によって著されたものである。心理臨床における基本的かつ重要な事柄を非常にコンパクトにまとめてある。本自体も小ぶりなものなので、常に手元に置いておけるという利点もある。



八日目の蝉

角田光代

中央公論新社 2011

社会福祉学部臨床心理学科 小川恭子

すでにドラマ化・映画化がなされている作品です。私がこの本を初めて読んだのは映像になる前でしたが、作品の世界にひきこまれてあつという間に読み終えてしまいました。ある誘拐事件をめぐる話ではありますが、事件の特別さだけではなく、女性の人生について深く考えさせられます。小説を通して人間とじっくり向き合う機会がもてるのではないかでしょうか。



よくわかる臨床心理学 改訂新版

下山晴彦編

ミネルヴァ書房 2009

社会福祉学部臨床心理学科 小海宏之

〈請求記号〉
146/Sh 55

臨床心理学を体系的に学習することができる成書であり、臨床心理士を目指される方の必携本です。



受精卵診断と出生前診断：その導入をめぐる争いの現代史

利光恵子著

生活書院 2012

社会福祉学部臨床心理学科 小谷裕実

命はみな平等である。これはゆるぎない事実であるものの、医学の進歩によって産むか産まないかの選択肢を迫られることがある。このとき、私たちは何を基準にして、いかなる選択をするのか。出生前診断についての医学的、社会学的な情報を網羅し、中立的立場から書かれた労作。研究の資料としてもお勧め。



京都の平熱：哲学者の都市案内

鷺田清一 [著]

講談社 2013

社会福祉学部臨床心理学科 妹尾香織

〈請求記号〉
講談社学術文庫
/2167

京都生まれ京都育ちの哲学者の視点で、京都という町、そこで暮らす人々を描いた京都案内本です。京都という町に憧れ晴れて大学生活を送る学生諸君に大変お勧めです。



常識の社会心理：「あたりまえ」は本当にあたりまえか

ト部敬康、林理編著

北大路書房 2002

社会福祉学部臨床心理学科 丹治光浩

「常識を疑ってみる」ことから学問は始まります。常識にとらわれていれば万能細胞は決して生まれなかつたでしょう。本書は臨床心理学を直接扱ったものではありませんが、「携帯電話」「結婚」「教育」「ごみ処理」など私たちの身近な問題を題材に学問的重要性と楽しさを教えてくれる格好の入門書です。一人でも多くの学生が手に取ってくれることを期待しています。



家裁の人 1~15

毛利甚八作

小学館

1988~1996

社会福祉学部臨床心理学科 橋本和明

<請求記号>

Q/U 79/1~15

家庭裁判所に係属した事件の様子をわかりやすく、しかも人間味あふれるタッチで描かれている。非行少年や子どもの問題、家族の問題を扱っていこうとする学生には非常に参考となる。人間関係をさまざまな視点から捉える力が身につくと思われる。



障害者総合支援法がよ～くわかる本

福祉行政法令研究会著.

秀和システム

2013

社会福祉学部臨床心理学科 藤井涉

障害者の生活を支える柱となっている障害者総合支援法が、比較的わかりやすく解説されています。



かかわりの途上で

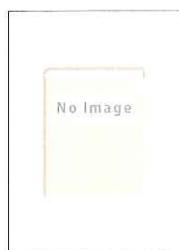
相川章子, 田村綾子, 廣江仁著

へるす出版事業部 2009

社会福祉学部臨床心理学科 三品桂子

<請求記号>
へるす出版新書
/003

精神保健福祉士はこころの病を持つ人たちの地域生活を支援する専門職であり、国家資格である。社会福祉学を基盤しながらも臨床心理学の技術も用いる。本書は3人の若手精神保健福祉士が多くの人々に精神保健福祉士という職業を知ってほしいと思いつづった書である。臨床心理学科の学生にぜひ読んでいただき、精神保健福祉士を目指してほしい。



子どもとことば

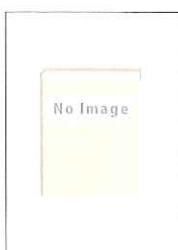
岡本夏木著.

岩波書店

1982

社会福祉学部臨床心理学科 渡邊実

発達心理学を学ぶ人にとっては、必読書です。特に、赤ちゃんがことばを獲得するために必要な、人との関係や、認知発達全体がどのような役割をしているのか、わかりやすく書かれています。



植物による食中毒と皮膚のかぶれ 増補改訂2版

指田豊 中山秀夫共著

少年写真新聞社 2012

社会福祉学部児童福祉学科 片山由美

<請求記号>
471.9/Sa 81

子どもの発達の援助には自然環境は欠かせない。そのなかで、私たちの身边にある「自然毒」の知識は、保育士や幼稚園教諭、養護教諭を目指す人は、とくに持つべきである。本書は、写真入りでわかりやすく解説もされているので、各種施設実習や教育実習にも生かしてもらいたい。



小学校までにつけておきたい力と 学童期への見通し

丸山美和子著

かもがわ出版

2005

社会福祉学部児童福祉学科 佐々木和子

今は幼保小の一貫した養護と教育がうたわれている中で、就学までに身につけておきたい生活面も含めた力が何かを知ることから、児童にかかる学びの課題を明確にとらえる事ができるようになる上では非参考書のひとつにしてほしい。



愛するということ 新訳版.

エーリッヒ・フロム著

紀伊国屋書店 1991

社会福祉学部児童福祉学科 保田恵莉

〈請求記号〉
141.6/F 48

E.フロムによる愛について深く考察した不朽の名作。大学生なら挑戦してみる価値があるだろう。作者は、一般に言われている「愛」の多くは単なる欲望に過ぎない。「極めて稀であるが、自らを成熟させ愛する能力を身に付けていこうとする事こそ幸福へ至る道である」と指摘する。愛は対象が問題でなく、試練により身につく技術であるとし、様々な愛の形を取り上げ、「誰かに“あなたを愛している”ということが出来るなら「あなたを愛して、全ての人を、世界を、私自身を愛している」と言えるはずだ」と説いている。(2014年テレビ化予定)



探検!ことばの世界 新版.

大津由紀雄著

ひつじ書房 2004

外国語教育課程

有吉淳一郎

言葉にはふだん無意識なゆえにあらためて考えてみると不思議な事が多くあります。みなさん、「連濁」という現象をご存知でしょうか。「ほん」と「はこ」で「ほんばこ」のように、2語を足し別の語を作る際、後ろの語の最初が濁音に変わる現象です。「まい」と「こ」で「まいご」。同じですね。でも「おや」と「こ」は「おやこ」ですよね。なぜでしょう。この本はこのような言葉の不思議へとみなさんを誘ってくれます。さあ不思議の扉を開けてみませんか。



中国の伝統文芸・演劇・音楽

赤松紀彦編.

京都造形芸術大学 2014

外国語教育課程 潘文東

〈請求記号〉
929.02/A 31

伝統文芸には祖先の知恵や生き方が残っている。日本の伝統文芸は中国の伝統文芸と切っても切れないかわりがあるので、中国の伝統文芸を考察することは日本の伝統文芸を深く理解するには有益なことだと思う。著者は最新の資料を駆使して新しい視点を通して、中国の文芸、演劇、音楽を幅広く紹介し、新しい示唆を与えてくれるし、われわれの人生についていろいろと考えさせられる。



すべらない敬語

梶原しげる著

新潮社 2008

外国語教育課程

吉村俊子

本書は、文化放送出身のフリーアナウンサーによる興味深い敬語の使い方に関する本です。内容は、文化審議会による「敬語の指針」に沿って、説明されています。敬語は日本人として、知つておく必要のある日本語特有の文化です。効果的に敬語を活用すると、相手に良い印象を与えることができると思います。著者は自身の経験を入れながら、巧みに解説していく、面白く読み進めることができます。



子どもとつくる対話の教育:生活指導と授業

鈴木和夫著

山吹書店 2005

教職課程 中善則

〈請求記号〉
375/Su 96

子どもの生きづらさと向き合う生活指導や生活世界とつながる学びをうみだす授業をしていきたい、と願っています。本書は、子どもと教師が、「対話」の授業を通して、子どもたちの世界をつくりかえていく宮みが描かれています。教員をめざす学生は一読を!失敗を繰りかえしてしまっても「約束する!約束する!破ったらまた約束して!」って、子どもたちの言葉にならない声が聞こえます。その声に耳を傾けられる先生になりたいね。

No Image

日本との出會い

ドナルド・キーン著 篠田一士譯

中央公論社 1975

外国語教育課程 衣川賢次

〈請求記号〉

中公文庫/キ-3-1

東日本大震災がおこって、八九歳のキーン氏は「日本人を勵ますために」日本国籍取得申請を決意したという。わたしは氏のいくつかの本、とくに自傳的な文章を読んで、ふかく印象に残るところがあった。氏は米國海軍語學學校で日本語を學び、前線に派遣されて、戦死した日本兵士や捕虜の日記や手紙を(軍事情報を得るために)翻譯する任務に從事していたとき、同時に検閲した米兵の手紙と比べて、「大義のために滅私奉公する日本人と、何の理想もなく、歸郷以外に何の關心ももたないアメリカ人。私は日本の軍國主義者の理想を受け入れることは決してできないが、一般的の日本人兵士に對しては、讚嘆を禁じえなかつた。そして結局、日本人こそ勝利に値するのではないかと信ずるにいたつた」(『日本との出會い』)と書いていて、あの頃にこんなアメリカ人がいたのか、この人の日本びいきの發端がこんなところにあったのかと驚いた。この感慨は右から左までの日本人を喜ばせるものだ。というのも、わたしは生意氣ざかりの學生時代、夏休みに歸省して八月十五日になると、きまつて父親と大喧嘩になつた。今おもうとあほらしいが「天皇の戦争責任」をめぐつてである。そのときキーン氏のような感慨を漏らすアメリカ人がいたことを知っていたら、軍屬としてジャワ島に從軍した父親を慰める言葉もあつたであつとおもう。またケンブリッジ大學でわづか數人の學生のためにおこなつた、彼の三十歳のとき(一九五二年)の講義が『日本の文學』(吉田健一譯、中公文庫、一九七九年)として出版されているのを読み、そこで「俳句の優れたところは暗示的な效果にあるが、讀者によって完成されるべきものとなつてゐる」と言つてゐるのに感心し(これは禪の語錄と同じだ。じつ禪の芭蕉への影響を指摘している)、氏の得意とする劇文學(謡曲、淨瑠璃)の紹介に觸れて、わたしも讀んでみようかという氣持ちをおこさせた。